

柏市観光基本計画「概要版」

「都市と自然、未来にふれあえるまち柏」

観光基本計画策定にあたって

◆観光基本計画策定の目的

柏市観光基本計画は、市民との協働や関係団体、民間事業者との連携体制を強化し、観光資源の魅力を高めて交流人口・昼間人口を増加させ地域経済を活性化することにより、豊かな生活環境の造成を図ることを目的とします。

◆観光基本計画の推進期間

本計画の対象期間は10年間とし、施策体系ごとに目標期間を短期(平成26～28年度)、中期(平成29～31年度)、長期(平成32年度以降)と定め、スケジュールにしたがって施策を効果的に推進していきます。また、5年後を目処に事業レビューを行い、事業の見直しを行います。

柏市の観光における現状と課題

◆現状

柏市は、柏駅周辺の大型商業施設とイベント等で賑わうまちというイメージにより、近隣市と比べて知名度を誇っています。「商業の集積地」、「ウラカシ」や「東の渋谷」に代表されるイメージが強い一方、従来の「観光地」としてのイメージとは合いませんでした。

しかし、国の掲げる成長戦略としての観光、また最近特に高まりつつある「食」と「農」の視点から捉え直すと、多くの観光資源が存在することがわかります。商業拠点を中心に年間を通して開催される音楽や食べ歩き等のイベント開催や、手賀沼の恵まれた自然環境、柏の葉エリアでの新しいまちづくり等に加えて、首都圏からの利便性、整備された交通網等、様々な条件も整っています。



◆課題

市民・来訪者等のアンケート及びヒアリング調査結果から判明した課題は次の6項目です。

- 1 観光資源の積極的な活用ができていない
- 2 交通網の整備が必要
- 3 効果的な情報発信による来訪者の誘致が不足している
- 4 市民の郷土愛を育む取組みが不足している
- 5 柏のブランドイメージが定着していない
- 6 関係機関との更なる連携強化が必要

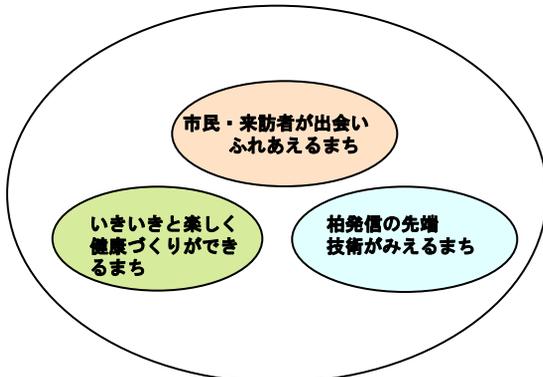


観光基本計画の基本方針及び施策の方向性

「都市と自然、未来にふれあえるまち柏」

◆基本方針

「柏市第四次総合計画」及び「柏市産業振興戦略プラン」を踏まえつつ、アンケート調査、ヒアリング調査から抽出された課題に対応する基本的な考え方をまとめました。



◆施策の方向性

「人が集まるものをすべて観光資源と考える」

柏市には、柏駅を中心とする商業施設の集積、あけぼの山公園や手賀沼エリア周辺の農業景観、柏の葉キャンパス駅を中心とした大学や研究機関の集積等、エリアごとに異なる特徴を持ったまちとなっています。そして、それぞれのエリアの持つ魅力に惹かれて、若者やファミリー層、ビジネスマンや研究者たちが集まってくるまちとなっています。これらの全てを観光資源と位置付けて、集客や誘致の取組みを行なっていきます。

「シビックプライドの醸成」

「シビックプライド」とは、住んでいるまちに自然と誇りを持つよう、「市民がそのまちに対して持つ自負・公共心」を指します。人口や所得や公共施設の数といった指標では測れない、測定困難な相対的概念です。集客面で成功した事例を見ると、成長しているまちとは、ブランディングの首尾一貫した姿勢や事業に参画している多くの市民、関係者の協力が欠かせません。観光は、「市外からの集客手段である」と捉えるだけでなく、市民が誇りに感じることができる観光資源をつくりあげることが重要です。

「シティプロモーションの促進」

本計画で言う「シティプロモーション」とは、柏市のPR手法を見直し、認知度を高め、集客に働きかけることに加えて、柏で働き、住みたいという人材を呼び込み、都市の魅力を強化しブランドイメージを確立することです。情報発信の方法としては、フェイスブックやツイッター等のSNSの活用を含め、効果的なPR手法を展開していきます。

「市域を超えた広域連携」

事業の取組みの実現には、各事業における専門的な知識や協働体制等が必要になります。まず、柏市も市内との連携を図り調整・情報共有等を行うとともに、観光協会や市民、大学、事業者が一体となって、観光振興を図っていかねばなりません。また、手賀沼等、より広域な取組みが求められている観光資源については、我孫子市や印西市等、周辺自治体と協力しながら観光振興に取り組んでいきます。

重点地域

各施策の検討にあたり、資源の集積度、集積している資源の特性、地域の特性、交通環境等を勘案して4つのエリアを設定します。

●柏駅周辺エリア

柏駅周辺には、多くの商業施設や飲食店等が立地し、買い物客で賑わっています。また、商店会等が主体となったイベント等も数多く行われています。

●あけぼの山公園周辺エリア

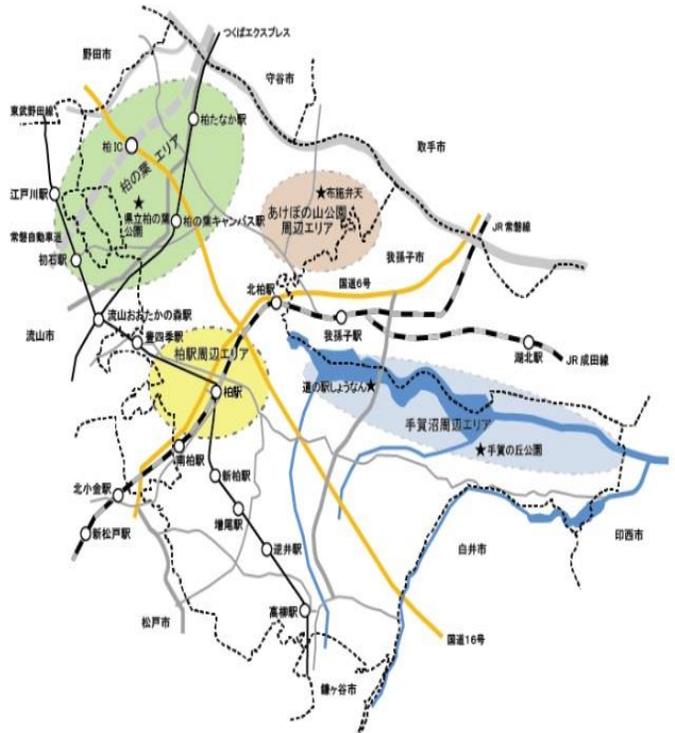
季節折々に咲きほこる花畑や布施弁天等、観光名所として観光客を集めています。憩いの場として、特に子育て世代の来園が多いです。

●手賀沼周辺エリア

豊かな自然が残る手賀沼は、サイクリングやウォーキング等スポーツが盛んに行われています。また、野菜の生産地として近郊農業も発展しています。体験型・参加型の事業も始まりつつあります。

●柏の葉エリア

大学等の研究機関や先進技術を持った企業が集積した地域で、公民学が連携してまちづくり活動を行っています。環境未来都市として市内外に発信していくためにスマートシティツアーの導入やMICE誘致等を行っています。



取組むべき事業(観光推進の方策)

1 柏市全域での取組み

柏市の観光資源を戦略的にプロモーションするとともに、市民の地域活動への参加を促進し、郷土意識を高めます。

方向性	具体的取組み	
優れた技術力を持つ地元企業の活用	視察ツアーの受入れ	
スポーツやクラブチームの積極的活用	ホームゲームによる集客	オリンピックキャンプ地の誘致
	スポーツファンの交流イベント実施	ウォータースポーツの振興
観光プロモーション活動の推進	拠点間の公共交通やサイクルロード等整備	テレビドラマ活用のプロモーション
	バス路線の新設と停留所の名称見直し検討	柏ウイスキーのPR
	ロケ地の誘致	柏をイメージした商品開発
	大規模野外イベントの開催	公設市場の賑わい創出
	吹奏楽部との連携プロモーション	
情報発信の充実	ガイド等の作成	多様な媒体による情報発信
	デジタルサイネージ等による情報発信	民間活力活用による情報収集
	農業分野に関する情報発信	市の広報物を活用したイベント情報の発信
市民・来訪者の地域参加促進	ポータルサイトの構築	モニター制度の構築
	ボランティア制度の活用 観光ガイドの育成	カシノワや里山ボランティアのPR
歴史文化財、文化芸能の保全とシビックプライドの定着	柏郷土資料展示室の周知	市内まち歩きマップの作成
	こども図書館の周知	柏の葉公園の活用促進
	伝統行事を紹介	こんぶくろ池の生態系市民周知
	昔話や芸能伝承の音声・映像記録	サクラ、カタクリ等の名所の環境保全
	茅葺屋根修繕見学ツアー	ボランティアの組成
	旧吉田家への観光バス進入	地域資源の活用による商品開発
	文化財保全の財源確保	

2 柏駅周辺エリアの都市型観光の推進

柏駅前の回遊性を高めるとともに、地域の文化・芸術の振興を図ります。

方向性	具体的取組み	
来訪者の受け入れ態勢の強化	空地を活用したオープンカフェの設置	多言語マップ・パンフレットの充実
	子育て世代が来訪しやすい環境整備	公衆トイレの改築促進
駅前回遊の促進	Wi-Fiスポットの設置	関係者と連携して治安対策強化
	休息スペース等の設置	駐輪場の整備
スペースを活用したイベントの開催	バリアフリー化の推進	サイクルシェアの拡大
	ダブルデッキ等でのイベント開催	イベント相談窓口の設置
	小規模イベントの定期開催	ストリートミュージシャン登録制度活用
柏発の文化・芸術の振興	アーティスト用アパートの提供	ライブハウスの活用
	多目的アリーナの整備検討	吹奏楽等のイベント
	既存ホールのオーケストラ等への提供	映画館のスクリーン活用
回遊性を確保する交通網の充実	観光地へのアクセス改善	他県観光地との直通ルートの実現
多様な資源の組合せによる滞在型観光の創出	観光タクシールートの組成	
	既存の観光資源複合化プランの提供	柏レイソルと飲食店の提携
	新しい食のイベントの開催	レイトチェックアウトプランの発売

3 あげぼの山公園周辺の活用促進

あげぼの山公園への年間を通じた集客を図ります。

方向性	具体的取組み	
1年を通じた花のある公園	花の大規模栽培等の演出	洋風庭園・ガーデニングの整備
	フォトコンテスト、花のイベント実施	高齢者も歩きやすい遊歩道整備
	花をテーマにワークショップの開催	園内を案内するガイドの育成
農の強みを活かした収益モデルの確立	農業・ガイド・体験プログラムの整備	加工実習室を活用した商品開発
	民間活力活用による施設整備	ローラー滑り台や屋内遊技場の整備
	レストランの通年営業	体験プログラムの導入
	レストラン活用による商品開発	芝生広場でのサッカーイベント実施
交通網の整備	道路拡幅工事による大型バス受入れ	駐車場の整備
自然とふれあう文化体験	あげぼの山公園への案内板整備	
	教育機関に体験型施設プロモーション	柏泉亭での茶の湯体験、陶芸体験

4 手賀沼周辺エリアの活用促進

手賀沼の自然環境を活かした取組みを積極的に推進するとともに、手賀沼南部に広がる農業を活用していきます。

方向性	具体的取組み	
自然環境を活かした観光への取組み	広域観光の検討	自然環境勉強会の開催
手賀沼とその周辺の整備と啓発	自然啓蒙イベントの実施	トイレの増設
	自然景観を守る活動の定期実施	ヨット・カヌーの係留付帯設備の整備
	桜並木の整備検討	手賀沼と利根川水系を巡る観光船の就航
	ハスの群生地周辺整備	案内標識板の整備
	収容能力のある施設整備とイベント開催	手賀沼エリアのビオトープ化推進
手賀沼周辺施設の利活用	サイクルポート整備	フットパスの導入
	手賀沼周辺施設での情報発信強化	県立手賀の丘少年自然の家等の活用
	フィッシングセンター内の施設の有効活用	周辺施設活用による市民の交流事業促進
農業エリアの賑わい創出	地場産野菜活用の農家レストランの設置	収穫体験等の交流イベント
	農家住宅を活用した農業振興と交流拠点	道の駅等での農業体験の情報発信
	体験農園の付帯整備	加工場を活用した体験型イベントの展開
柏産野菜・果物の有効活用	商工業者と連携した農作物加工品の開発	農産物に付加価値をつけた情報発信
シティーセールスの強化	グリーンツーリズム、エコツーリズムの推進	

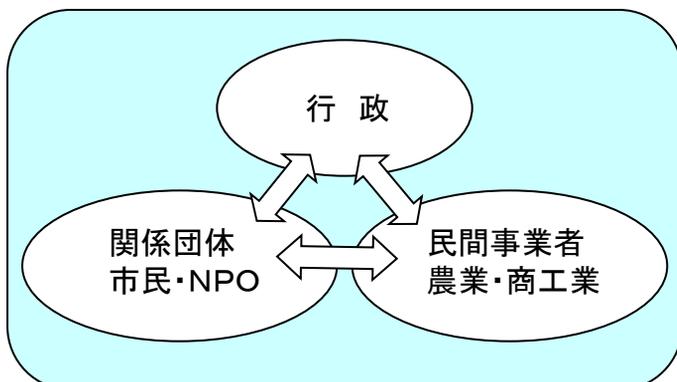
5 柏の葉エリアでのビジネス型観光の強化

MICEやスマートシティの視察を誘致する等、観光推進体制を構築します。

方向性	具体的取組み	
MICEの誘致	大学・企業による会議・学会の誘致 誘致組織への情報提供や支援	姉妹都市活用などによる海外でのPR活動 市民参加イベント等の支援
柏らしいアフターコンベンションの促進	飲食店の特典提供による滞在型観光促進 柏駅との交通路線整備 環境特化型ツアーの開発	企業と連携したオリジナルツアーの実施 モニターツアーの実施
コンベンション誘致に関する交通整備	TXの東京駅延伸の検討 柏の葉キャンパス駅に快速電車の停車要望 ルートを確定した上でバス発着場の整備	成田・茨城空港への直通バス可能性検討 羽田空港への直通バスの増便促進 県民プラザ等へのシャトルバスの検討
柏の葉キャンパス駅周辺でのイベントの周知	イベントの開催	イベント等の支援
柏の葉地区を拠点としたインフォメーションセンターの設置	多言語対応インフォメーションセンター設置 観光ボランティア講座の開催	通訳ボランティアガイドの育成支援 Wi-Fiの整備
	外国語表記のパンフレット・HP作成	ホテルでの宗教食の提供促進
	外国語表記の案内板やICT活用による案内	
スマートシティツアーの活用	旅行会社と連携してツアー受入態勢整備	
大学や企業と連携した観光推進体制の構築	旅行会社との連携によるツアー検討	専門知識のあるボランティアガイドの育成

観光振興の推進体制

本計画の推進にあたっては、市民との協働や公民学連携の理念を基調に、柏市観光協会等の関係団体、農業・商業・工業の各民間事業者等と一体となって柏市の観光振興に取組み体制づくりを構築していきます。



推進策のスケジュール

本計画のスケジュールは、まず「短期(3年)」に実施すると定めた各事業の実現可能性・妥当性を検討します。個別事業の実施検討にあたっては、利害関係者との協議、とくに市内部においては関係各部署と協議し、優先順位を付けてから実施します。

また、本計画の進行管理については、5年後を目処にレビューを行い事業の見直しを行います。

柏市観光基本計画【概要版】平成26年3月発行
発行：柏市経済産業部商工振興課
〒277-8505 柏市柏五丁目10番1号
TEL 04-7167-1111(代) FAX 04-7162-0585